

グローバル化と環境保全型農業

外国語学部フランス語学科 4 年

A9853033 西原あや

要旨

グローバル化は地球環境にどのような影響を与えているのか。近年、情報技術や科学技術の発展で、経済のグローバル化はますます進んでいる。1995 年には多角的貿易自由化を目的とした WTO も誕生し、より効率的な国際分業体制がひかれるだろう。このように、グローバル化は後戻りできない段階にまで来ている。一方、地球環境問題も後悔しても後戻りする事 ができる問題だ。1972 年にローマクラブが「成長の限界」を発表して 30 年、異常気象、大気汚染、生物多様性の減少など様々な環境問題を人類は目の当たりにしてきた。それを受けて、人間の活動と環境問題の関係を調査する科学的な研究も行われ、持続的な開発を目指して数々の国際条約が締結された。しかし、経済発展と環境保全を両立する事は可能なのか。

この論文では、共に不可逆的な性質をもち、同時進行中のグローバル化と地球環境問題がどのような関係にあるのかを調べたい。また日本がこの世界的な潮流の中で環境問題に対してどのような理由でどのような立場をとっているのか知りたい。その際、以下の三つの理由により地球環境問題の具体例として「農業」を取り上げる。

農作物は生産段階で自然や生態系に直接影響を与えている。また、環境保全型農業という新たな農業形式がある。

農業からの環境汚染と食の安全性は密接な関係がある。

国際的には農作物貿易自由化の問題を抱えていて、グローバル化が地球環境に与える影響の一例を見る事ができる。

論文の流れとしては、まず農業を環境問題の視点から説明し、日本政府がこれまでどのような農業政策を取ってきたか紹介する。次に環境問題と自由貿易の関係をとりあげ、国際舞台での農業交渉を環境保全という観点からみる。そして最後に、グローバル化が環境問題に与える影響、その問題を解決するにあたっての問題点や課題を考察する。

主要な参考文献

アン德里ュ・K・ドラクン『持続可能な農業と環境』農山漁村文化協会。

パブリック シティズン『誰の為のWTOか』緑風出版。

嘉田良平『世界各国の環境保全型農業』農山漁村文化協会、1998年。

久宗高著『環境保全型農業と世界の経済』農山漁村文化協会、1991年。

矢口芳生『WTO体制下の日本農業「環境と貿易のあり方を探る」』日本経済評論社、2002年。

OECD『農業の多面的機能』農山漁村文化協会、2000年。

原剛『農から環境を考える』集英社新書。

和田武『環境問題を学ぶ人のために』世界思想社。

日引聡、有村俊英『入門 環境経済学』中公新書。

伊藤元重『日本の食料問題を考える』N T T出版。

財団法人農林統計協会『図説 食料・農業・農村白書 平成13年度版』2001年。